

## 第5学年 音楽科学習指導案

○組 計 37 人  
指導者 ○○ ○○

- 1 題材 せんりつと低音・和音  
教材 「静かにねむれ」 武井君子 作詞 フォスター 作曲  
「それは地球」 長崎一男 作詞 森京太郎 作曲  
◎「威風堂々 第1番」 エルガー 作曲

### 2 題材について

#### (1) 題材の位置とねらい

これまでに子供たちは、第5学年題材「せんりつの重なりを生かして」において、主旋律に対位的な旋律や和声的な旋律を重ねて二部合唱する活動を通して、音の重なりによる響き合いを感じ取って表現する楽しさを味わってきている。さらに子供たちは、旋律に低音や和音の伴奏を加えた合奏をしたり、さらに多くの音を重ねた合唱をしたりしてみたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは、旋律に合う低音や和音の響きを探してつくったり、和音の中に含まれる音を重ねて歌ったりする活動を通して、音の重なり的美しさや和音の響きの違いや変化を感じ取る能力を育てるとともに、旋律と低音・和音の重なりに関心を持ち、進んで表現しようとする意欲や、音の重なりを生かした表現の仕方を追求する能力を高めることをねらいとして、本題材「せんりつと低音・和音」を設定した。

ここでの学習は、副旋律を加えた四つのパートの音の重なりを味わい、楽器の音色や音の出し方を工夫して表現する能力を育てたり、和音の響きの違いや変化を感じ取って表現する能力を育てたりする第6学年題材「音の重なりを生かして」の学習へと発展していくことになる。

#### (2) 指導の基本的な立場

音の重なり的美しさや和音の響きの違いや変化に気付き、それを感じ取って表現する能力を高めるためには、合唱や合奏の活動を通して低音や和音のもつ表情を感じ取らせ、和音の音の重ね方を工夫して表現したり、それらを互いに聴き合ったりして、和音のもつ表情や、その表情が変化するおもしろさや美しさを味わわせることが効果的である。特にこの期の子供たちには、旋律に合わせていろいろな高さの低音を演奏したり、いろいろな種類の和音を演奏したりしながら、試行錯誤を繰り返す中で響き合う低音や和音を探る活動に取り組ませることが大切である。

具体的には、まず「静かにねむれ」を取り上げる。この曲は、主人を失い別れを惜しむ家人の心情を歌ったものであり、緩やかな起伏のある旋律は表情豊かで美しい。また、この曲は1小節1低音・1和音（部分的に1小節2低音・2和音）で構成されており、出てくる和音も主要三和音（I，IV，V）だけであることから、低音と和音の響きや変化を感じ取りながら旋律と低音・和音のかかわりを理解するのに適している。そこで、鍵盤ハーモニカとオルガン、キーボードなどによる似た音色での楽器を使い、旋律に合う低音や和音を探って組み合わせる活動を通して、音の重なり合う美しさを味わえるようにする。

次に「それは地球」を取り上げる。この曲は、生命が宿る唯一の星といわれる地球の未来をみんなで守っていきたいという願いのこめられた曲であり、後半の歌詞「それは地球」の部分で、分散和音による三部合唱でIの和音の響きをつくることができる。そこで、重なる三つの音を、互いによく響き合う声で歌う活動を通して、I・IV・V・V7の和音による歌声が重なり合う響きを味わえるようにする。

さらに「威風堂々 第1番」を取り上げる。この曲はオーケストラによる演奏会用の行進曲で、「威風堂々」の題名で書かれた5曲の中で最も親しまれている曲である。そこで、オーケストラの

いろいろな楽器の音色や音の重なりを聴く活動を通して、音が重なり合う響きの美しさや変化を味わえるようにする。

このような学習を通して、子供たちは表現の工夫をする音楽のつくり方を学ぶ力を深めていくとともに、音の重なり的美しさを味わい、低音や和音の響きの違いや変化についての興味・関心を高め、それを感じ取って表現していこうとする態度を身に付けることができる。

### (3) 子供の実態 (調査対象 5年〇組 37人)

本学級の子供たちの実態は次のとおりであった。

① あなたは音を重ねて歌ったり、合奏したりすることは楽しいですか。	
○ はい (29人)    いいえ (8人)	
② その理由を書いてください。	
<b>【「はい」の理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ きれいな音楽になるから (11人)</li> <li>・ いろんな音がきこえて楽しいから (9人)</li> <li>・ おもしろくなるから (8人)</li> <li>・ その他 (1人)</li> </ul>	<b>【「いいえ」の理由】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ むずかしくなるから (5人)</li> <li>・ 好きではないから (3人)</li> </ul>
③ 今から演奏する旋律(「故郷の人々」の1段目)と、重ねる音は合っていますか。	
○ 全音符で低音を演奏(ア ドソドソの順    イ ドレミファの順    ウ ドファドソの順) 正解 (29人)	
○ 全音符で和音を演奏(ア I I I Vの順    イ I V I Vの順    ウ I I V V Vの順) 正解 (28人)	
④ 「はじめましょう」のカデンツを歌いましょう。(I V I V Iのカデンツを4人で重唱)	
○ 正しい音程で発声にも気を付けて歌うことができる (15人)	
○ 正しい音程で歌うことができる (14人)	
○ 正しい音程で歌うことができない (8人)	

①②から、4年生までの音を重ねる学習について多くの子供たちが「好き」と答えているが、音を重ねる学習に抵抗感を持っている子供たちもいる。そこで、4年生で学習した音楽遊びを再び取り上げ、音を重ねる活動を取り入れることにより、抵抗感を取り除く必要があると考える。

③から多数の子供たちが旋律に合う低音や和音を選択できた一方で、合う音を選択できない子供たちもいた。その原因として、音の重なり合いをよく聴いていないことや、旋律に合う低音や和音を選択できる音の感覚や能力が備わっていないことなどが考えられる。そこで、旋律の音の動きに対して響き合う低音・和音の組み合わせ方を楽譜の上からも理解させる必要があると考える。

④から、正しい音程で歌える子供たちが多数いる一方で、歌えない子供たちも少数いることがわかった。ふだんから周囲の子供の音程に合わせて歌っていたり、和音の感覚が身に付いていなかったりすることが原因と考えられる。そこで、和音の感覚をしっかりと身に付けさせ、一人でも和音の中の音高を感じ取って歌えるようになることが必要であると考え。

### (4) 指導上の留意点

以上のことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 子供たちが意欲的に学習に取り組めるようにするために、「重なり遊び」などの音楽遊びで3度上や下の音を重ねて歌う活動を取り入れたり、これまでよりも音域の広がった合奏の活動を取り入れたりすることにより、音の重なり合いを体験できるようにする。

イ 子供たちが旋律に合う低音や和音を探り、響き合う音を見つけるために、旋律と低音・和音の響き合う関係を音符からとらえることができるような楽譜を掲載したワークシートを準備するようにする。

ウ 子供たちが正しい音程で和音を歌う技能を高めることができるようにするために、階名唱でI・IV・Vの和音を歌いながら音を重ねる活動を通して、和音に対する感覚を身に付けさせていくようにする。

### 3 目 標

- (1) ヘ音記号やヘ音譜表、和音の種類について理解し、表現することができる。【知識及び技能】
- (2) 響き合いに気を付けながら旋律に合う低音や和音の探し方がわかり、それらの響き合いを生かした表現の工夫をすることができる。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 旋律と低音・和音の重なりに関心をもち、その響き合いを味わいながら、進んで表現したり鑑賞したりすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

### 4 指 導 計 画 (全7時間)

過 程	時	教材	主 な 学 習 活 動	教 師 の 働 き かけ		
課題把握	1	「	様子を思いうかべて歌ったり、演奏したりしよう。	○ 緩やかな起伏のある旋律を表現するために、縦書きの歌詞カードを準備して歌の気持ちを想像することができるようにする。		
課題追求Ⅰ			○ 「重なり遊び」をする。 ○ 範唱を聴いて、感想を話し合う。 ○ 曲の感じを生かして歌ったり、演奏したりする。			
	2	静	せんりつに合う低音をさがそう。	○ 歌詞を歌い方に生かすことができるようにするために「やさしく」「しずかに」などの歌詞に着目させ、「どん歌い方をすればいいかな」などと問いかけるようにする。		
	3		か	せんりつにひびき合うように和音をさがそう。	○ 子供たちに音の重なり合いのちがいに気付かせるために、1小節ずつじっくり聴かせ、「曲の感じがどのように変わったかな」などと問いかけるようにする。	
	4			ね	○ 子供たちに和音さがしのねらいをしぼらせるために、この曲では三つの和音しか使わないことを知らせ、和音の名前〔Ⅰ（1度）・Ⅳ（4度）・Ⅴ（5度）〕まで説明するようにする。	
課題追求Ⅱ	4	む	せんりつと低音・和音を組み合わせせて演奏しよう。	○ 和音さがしの活動が負担にならないように、1段目の4小節分を和音さがしさせるようにする。		
	5	れ	歌詞の様子や意味を考えながら歌おう。	○ 三つのパートの音量のバランスのとれた合奏にするために、人数の配分を考えさせるようにする。		
	6		そ	お互いの音程に気を付けながら三部合唱しよう。	○ 音量のバランスのとれた合奏にするために、旋律と低音、和音の大きさに気を付けて演奏させる。	
課題追求Ⅱ	6	は	○ 範唱を聴き、感じたことを話し合う。 ○ 音程やリズムに気を付けて歌う。 ○ 相互に発表、鑑賞し合う。	○ 歌詞を歌い方に生かすことができるようにするために「宇宙にただひとつ」「生まれるいのち」などの歌詞に着目させ「どんな歌い方をすればいいかな」などと問いかけるようにする。		
課題解決	7	地球	オーケストラの楽器や和音のひびきに気を付けてきこう。	○ 生き生きした歌い方になるように、タッカのリズムや歌詞「青い星」の前の四分休符を意識して歌わせるようにする。		
			○ 「威風堂々 第1番」を聴いて、感じたことや気付いたことについて話し合う。	○ 美しい響きになるように、三部合唱の部分は音量のバランスにも気を付けさせるようにする。また、息継ぎを長くしすぎないことや、言葉の発音にも気を付けさせるようにする。		
まとめ		「威風堂々 第1番」	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                     気付いたこと                      ・始めと終わりの部分は似ている、細かい動きがある。                      ・中間部はなめらか。                 </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;">                     感じたこと                      ・堂々とした感じ                      ・流れるような感じ                 </td> </tr> </table>	気付いたこと ・始めと終わりの部分は似ている、細かい動きがある。 ・中間部はなめらか。	感じたこと ・堂々とした感じ ・流れるような感じ	○ なめらかな旋律と低音・和音で演奏される中間部に気付くことができるようにするために、中間部に入ったら挙手をするなど身体反応の活動を取り入れるようにする。
気付いたこと ・始めと終わりの部分は似ている、細かい動きがある。 ・中間部はなめらか。	感じたこと ・堂々とした感じ ・流れるような感じ					
			○ 曲の感じに合わせて指揮まねなどの身体表現をしながら聴く。	○ 和音に気付くことができるようにするために、パイプオルガンの音色に気を付けながら聴かせるようにする。		

5 本 時 (3 / 8)

(1) 目 標

ア 拍の流れにのって、和音伴奏を演奏することができる。【知識及び技能】

イ 旋律と低音・和音の響き合いに気を付けながら、旋律に響き合う和音を探す活動に進んで取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 本時の展開に当たって

和音が移り変わることによって旋律に響き合うことよさを感じるようにするために、旋律に響き合っている和音伴奏と、響き合っていない和音伴奏とを比較鑑賞させる活動を取り入れるようにする。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時	教 師 の 具 体 的 な 働 き かけ
課題把握	1 旋律と低音に和音を加えた「静かにねむれ」の範奏を聴き、感じたことを話し合う。 ・ 旋律と低音だけより音が重なってきれい。	(分) ↑	○ 前時に学習した「旋律+低音」だけの演奏よりも音が重なって豊かな響きになることに気付くことができるようにするために、和音を加えた演奏を聴かせるようにする。 ○ 本時のめあてを導き出すために、旋律に響き合っていない演奏を聴かせ「さっきの演奏とどのように違っていたかな」と問いかけるようにする。
課題追求 和音探し	2 本時のめあてについて話し合う。 せんりつにひびき合うように和音をさがそう。 ・ 旋律に響き合わない和音だとおかしいよ。 ・ 落ち着いた感じがしないな。	10	○ 和音の移り変わりに気付くことができるようにするために、和音のみを取り出して聴かせるようにする。 ○ 子供たちが主体的に比較・検討して和音探しができるようにするために、使用する和音を主要三和音 (I・IV・V) のみにする。
相互発表・鑑賞	3 旋律に合う和音を探す。 (1) 和音の種類を知る。 (2) 鍵盤ハーモニカで和音を練習する。 (3) 1段目を小節ごとに、旋律に合わせながら和音を探す。 4 探してできた和音をグループ演奏の形で発表する。 ・ ○班の和音は、ぼくとたちと同じで旋律に響き合っていました。	30	○ 旋律と和音が響き合っているか注意深く聴けるようにするために、5人グループのうち1人ずつ旋律と和音を演奏し、あとの3人は聴く活動をさせる。 ○ 和音をうまく演奏できない子供には、スムーズに演奏できるようにするために、正しく和音を演奏するための指使いを助言したり、その子供の体を軽くリズム打ちしながら、拍の流れにのって演奏させたりする。
まとめ	5 曲の最後まで和音を知り、練習する。 6 学習のまとめをする。 ・ 旋律に響き合う和音と、合わない和音のあることがわかり、演奏できるようになりました。	5	○ 本時で学んだ旋律と和音の響き合いや、正しく演奏する技能を次の合唱の教材での演奏の工夫に生かすことができるようにするために、本時でわかったことやできるようになったことを発表させるようにする。